

2023.09.14 於盛岡市

宮城県社会保障推進協議会
北海道・東北ブロック事務局長会議〈報告〉

STOP! 精神医療センター富谷移転、
2・23 みやぎユーザーズアクション

“声なき声と共に”

Action News

アクションニュース

増刊号

vol.025

2023.9.8

【毎週金曜日発行】

stop.iten223@gmail.com



移転を勝手に
決めるな!

STOP! 富谷
移転反対
宮城県立
精神医療センター
Miyagi Psychiatric Center

みやぎアピール大行動2023デモ行進

【特集】審議会は移転反対多数！知事の公募案とは？...P2-4

みやぎアピール大行動2023が開催されました...P5

Stop！4病院再編連続街頭宣伝行動part3

Nothing about us without us!

私たち抜きに私たちのことを決めるな！



facebook

審議会は移転反対多数！知事の公募案とは？



審議会で提案する村井嘉浩県知事

審議会は移転反対多数！ 知事の公募案とは？

8月31日(金)、第3回宮城県精神保健福祉審議会が開催され、会議に出席した村井嘉浩知事が「名取市に民間精神科病院を新たに公募し開設する」という新提案をしましたが、急な新提案は驚きと戸惑いを持って迎えられ、審議会委員からは異論が続出しました

「富谷市移転は公約」「まず公募をやらせてほしい。移転が出来なければ辞職する」という知事に対して、審議会の委員からは「そもそも県民・当事者の意見を反映した公約ではない」「知事の進退は関係がない」と一蹴されました。

「私を止められるのは県議会だけ」という村井知事の新提案に対する賛成もゼロでした。

またしても県の意向が富谷移転ありきなことが明確になりましたが、この知事提案は我々当事者にも衝撃を与えました。県はこれまで、県立がんセンターと仙台赤十字病院を統合する名取市の新病院に精神科の外来機能を持たせると説明していましたが、それが今後どうなるのか疑問が残ります。

民間精神科病院を新たに開設で従来案を廃止というのであれば、県は公募案により後戻りできない決断をしたことになります。

宮城県精神科病院協会が 緊急声明と逆提案

村井知事の公募案を受けて宮城県精神科病院協会から緊急声明と逆提案が出されました。以下全文を掲載します。

緊急声明

(一社)宮城県精神科病院協会
会長 岩舘 敏晴

昨日(令和5年8月31日)開催された宮城県精神保健福祉審議会において、村井嘉浩知事は名取市に最大120床規模の民間精神科病院を公募する考えを明らかにした。県南の精神疾患患者、精神障がい者に配慮した

ものだというが、基本は本来県が責任をもって担うべき役割を民間に丸投げするという県の姿勢を改めて表現したものであった。

もし公募というなら、県立精神医療センターを名取市に残した上で、富谷の新病院こそ公募するべきであり、

その新病院は「合築」といわず身体合併症に対応する総合病院精神科の機能に特化した病院にすれば良いだけである。

今回も、県が精神科医療の実情についてあまりにも無理解であることを露呈しており、当会としては県立精神医療センターの富谷市移転に改めて反対し、知事の提案も宮城県における精神科医療に対する誠実さに欠けるものと考え、この提案に反対するものである。



知事提案に異論が続出の精神保健福祉審議会

審議会は移転反対多数！知事の公募案とは？

県の提案に対して宮城県精神科病院協会からの逆提案

(略)

ここに至る県の考えを整理すると以下のような流れである。富谷市に完全移転する→名取市に外来機能を残す→名取市に入院機能も残す→名取市に民間精神科病院を新設して精神医療センターの機能を継承させる

この流れを見て誰もが思うのは、それなら精神医療センターは名取市に残ったらよいではないかということである。

村井知事の提案を受け、宮城県精神科病院協会は次のように逆提案する。

①精神医療センターは名取市に残し、長年築いてきた地域精神医療保健福祉を継続すると

共に、地域包括ケアをさらに推進して夜間救急の減少を図る。

②富谷市には東北労災病院と連携して身体合併症の対応に特化した民間精神科病院の新設を公募する。

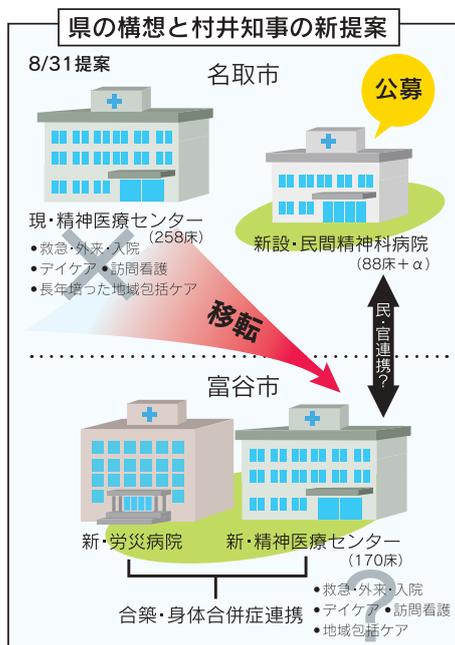
村井知事の提案によって高等看護学校跡地(6,700㎡)に最大120床の病院建設は可能であることが明らかにされたのであるから、精神医療センターをダウンサイズすれば同地に早期移転は可能である。ダウンサイズさせるためには、長期入院慢性患者を周辺病院や住所地の病院に転院させ、今後は救急と急性期の入院治療および地域ケアに特化した病院として機能すればよい。名取市美田園にある児童関連施設との連携も可能である。

救急のために多数の個室が必要ならば120床をさらにダウンサイズしてもよいし、土地面積が狭いなら現精神医療センターの道路反対側にある県所有地を利用すればよい。同地に建設されていた仮設住宅は既に撤去され更地になっている。一方富谷の新病院は東北労災病院と協力して身体合併症に対応する精神科病院として機能すればよい。県立ではないから合築といわず、将来的には再編統合も可能である。

当会の提案は、精神疾患患者及び精神障がい者、地域の支援者や関連施設、精神医療センター職員、県内の精神科医療機関、そして村井知事を含めた誰もが困らないと共に、宮城県における精神科医療の底上げにも繋がるものであることを最後に強調したい。

註)西尾雅明審議会委員によれば、地域包括ケアを推進することは夜間救急の減少につながることで海外のデータで実証されている。

左図は新提案と逆提案を比較したもの



審議会は移転反対多数！知事の公募案とは？

病院部会開催は「条例違反」 市民団体要綱を無視と抗議

医療関係団体等で作る地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会では、9月4日開催の県医療審議会病院部会が、県情報公開条例違反での告知・開催となっていることについて「抗議文」を村井知事及び県医療審議会医療部会宛に提出しました。

この条例の事務取扱要綱では、審議会などを公開または一部公開で開催する際、事前の周知を義務付ける。「少なくとも開催の日の7日前までに」ホームページ等に日時や場所、議題を掲載すると定めています。

今回の病院部会の開催告知は3日前の1日。県政記者クラブで会見では「県民が当たり前情報を知るということを基本的に踏みにじるもの。」

抗議文を提出する「地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会」代表



どの審議会にも県民が立ち会える民主主義を基本的に保証しなさいと抗議した」とし、「村井知事の意向が職員を縛り、本来の形での開催ができていないのではないかと危惧する」と訴えました。

詳しくはこちらから

<https://sennannet.livedoor.blog/archives/22052292.html>



村井知事の民間病院誘致案 郡仙台市長会見「寝耳に水」

郡仙台市長は9月4日の会見で、先週示された宮城県名取市に民間の精神科病院を誘致とする村井知事の新提案について「寝耳に水」とした上で「新たな病院をつくることは自己矛盾ではないか」と疑問を呈しました。

郡仙台市長「県立精神医療センターが移転することによって、ニーズが多い精神医療に対して新たな病院をつくるということになるわけですね。これについて、自己矛盾はないのかということも申し上げなくちゃならない」と述べ、名取市に精神科病院を誘致するという知事の案に疑問を呈しました。また、県の審議会で賛同を得ら



村井知事の民間精神科病院誘致案に遺憾の意を示す郡仙台市長

れないまま公募に踏み切ろうとしていることに強い不信感を示し、「(審議会で)全員が反対と聞いているし、多くの皆さんの疑問にはお応えいただけないままこのようなことが行われることについては、本市としてもとても遺憾だと思います」と県の姿勢を批判しました。

郡市長会見<全文>こちらから

<https://syahokyo.blog.jp/archives/22684892.html>



みやぎアピール大行動2023が開催されました



木村英子氏がみやぎアピール大行動のデモ行進に参加

みやぎアピール大行動2023 が開催されました

9月3日(日) 障害者への偏見や差別の解消を訴える「みやぎアピール大行動2023」が開かれ約120人が参加しました。集会会場となったせんだいメディアテークでは木村英子参議院議員を迎えくしょうがい者があたりまえに生きられる社会を実現するために「>」をテーマに講演、「健常者の理解がないと障害者が生きていくのは難しい」などと訴えました。リレートークでは4名が発言、WEB署名発起人の青木もらんさん(仮名)からは県立精神医療センター(名取市)の富谷市移転構想に反対を次のように訴えました。

「無理に既存の患者の通院の困難な富谷市に移転する理由は私たち当事者の側にはありません。現状の県の施策は富谷移転ありきで、それを患者や関係者の意見も聞かず上からいう事を聞かせようとしているとしか言いようのないもので、ただでさえ通院困難な障害を抱えた患者を置き去りにした非常に功利的で血の通わないものです。」

集会後、約100人が「私たち抜きに私たちのことを決めるな!」「優生思想をゆるすな」「障害者権利条約を守れ」などと書かれたプラカードを掲げ、「精神医療センターの移転を勝手に決めるな!」などアピールコールと共に定禅寺通やアーケード街を歩いてJR仙台駅まで行進しました。

Stop! 4病院再編 連続街頭宣伝行動part3

9月5日(火) 県議会開会日に、ともに市政を考える仙台市民の会が呼びかけた県庁前街頭宣伝行動には約100名の市民が参加。村井知事が新たに名取市に民間精神科病院誘致・公募を打ち出したこともあり、参加者からは知事の新提案を批判する発言が次々出されました。集会では、村井知事に対して「4病院移転再編反対!」「村井知事は、県民の声を聞け!」などシュプレヒコールを行いました。同団体の主催する3回にわたる連続街頭宣伝行動に参加したのは累計200名あまりの市民となり、県の4病院再編計画が市民の声を汲み取らないものだという事を訴えました。

県庁前で抗議の街頭宣伝をする市民



みやぎ社保協 FAXNEWS

2023年9月8日 FRI No.969

「人権としての社会保障制度」 の運動推進を！

〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-5-13
宮城県社会保障推進協議会

Tel 022-223-0566 / Fax 022-223-0977

e-mail miyagisyahokyo@bz04.plala.or.jp

しょうがい者があたりまえに生きられる社会を実現するために みやぎアピール大行動2023 120人参加！



9/3（日）障害者への偏見や差別の解消を訴える「みやぎアピール大行動2023」が開かれ約120人が参加。集会会場となったせんだいメディアテークでは木村英子参議院議員を迎え<しょうがい者があたりまえに生きられる社会を実現するために>テーマに講演、「健常者の理解がないと障害者が生きていくのは難しい」などと訴えました。

集会後、約100人が「障害者権利条約を守れ」などプラカードを掲げ、JR仙台駅前まで行進した。

みやぎ4病院再編統合・移転反対！

県議会開会日 市民の会アピール県庁前宣伝100人！



9/5（火）県議会開会日に、ともに市政を考える仙台市民の会が呼びかけた、県庁前アピール行動には約100名の市民が参加。村井知事が新たに名取市に民間精神病院誘致・公募を打ち出したこともあり、参加者からは知事の新提案を批判する発言が次々出されました。

令和5年度 宮城県精神保健福祉審議会（第4回）
2023年9月13日（水）18:30-20:00
宮城県行政庁舎9階 第一会議室

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会 宮城県情報公開条例違反のもと告知されている 県医療審議会病院部会開催に<抗議>県・審議会へ提出



9/4（月）地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会では、9月4日開催の県医療審議会病院部会が、7前告示の原則とした県情報公開条例違反での告知（告示1日）・開催となっていることについて「抗議文」を村井知事及び県医療審議会医療部会宛に提出しました。

会見も行い「村井知事の意向が職員を縛り、本来の形での開催ができていないのではないかと危惧する」と訴えました。

（写真左下／検討記者クラブ会見で訴える世話人（中央））

▶▶▶ スマホでも見やすくなって！毎日更新中！社保協Blog：<https://syahokyo.blog.jp/>

私たち抜きに
私たちのことを
決めるな！



しょうがい者が あたりまえに 生きられる社会へ

Nothing about us
without us!



みやぎアピール大行動実行委員会

News

発行／みやぎアピール大行動実行委員会事務局
メール：appeal318@hotmail.co.jp

2023.9.8. FRI No.4



しょうがい者があたりまえに生きられる社会を実現するために みやぎアピール大行動2023 集会120人！デモ行進100人！

9/3（日）障害者への偏見や差別の解消を訴える「みやぎアピール大行動2023」が開かれ約120人が参加。集会会場となったせんだいメディアテークでは木村英子参議院議員を迎え<しょうがい者があたりまえに生きられる社会を実現するために>テーマに講演、「健常者の理解がないと障害者が生きていくのは難しい」などと訴えました。

集会後、約100人が「障害者権利条約を守れ」などプラカードを掲げ、JR仙台駅前まで行進した。

しょうがい者があたりまえに生きられる社会へ みやぎアピール大行動2023 アピール

「あたりまえに生きる」「自分らしく生きる」という言葉には、穏やかでとても積極的な響きがある。誰もがそうありたいと願うだろう。

しかし、しょうがい者やマイノリティーにとってそれはとても難しい。多くの生きにくさや障壁を一つひとつ破っていかなければ実現できないからだ。差別や偏見、無理解のほか、設備や制度の不備などである。

こうした生きにくさや障壁をなくしていくための闘いはいたるところで続けられてきた。時に悔しさや怒りを力に変えて、動かぬ体を張って。「私たちの声を、思いを聞け」「私たち抜きに私たちのことを決めるな」と。同じ地域、隣近所でもともに生活することを求め続けてきたのである。

こうした声によって、障害者権利条約や様々な法律、制度として形になりつつある。

とはいえ相談支援や介護制度といった地域生活を支える仕組みも「全国一律」という掛け声とは裏腹に、地域格差が大きい。

本人や家族の意志に反して暮らす場、学ぶ場を分けられている状況も、大きな方針としては転換されつつあるが、国や行政の関連施策からは必要な仕組みを積極的に整えようという意識は感じられない。

2022年8月には障害者権利条約批准後初めての対日審査が行われ、翌月には障害者権利委員会からの総括所見が日本政府に示された。総括所見では、特に障害者の施設入所を減らすための具体的な措置を迅速にとること、また、インクルーシブ教育を具体的に進めることを強い言葉で求めている。これらのことは、長い間私たちが願い続けてきたことでもある。権利条約が当事者の声からできあがったことを忘れてはならない。

「あたりまえに生きる」「自分らしく生きる」という素朴な言葉に込められている意味を今一度かみしめながら「共に生きる社会」を目指して、私たちは声を上げ続ける。

私たちはこれまで、障害者の生活をより困難なものにした障害者自立支援法に反対する運動で連帯してきた。これからもこの場に集まった仲間、集えずとも同じ思いを強く持っている仲間たちとともに、障害の有無やさまざまな立場を越え共に暮らせるみやぎをつくっていこう。そして、本日、みやぎアピール大行動に結集した私たちは、自信と誇りを胸に、17回目の街へ出よう。

2023年9月3日

みやぎアピール大行動2023 参加者一同

みやぎ社保協 FAXNEWS

2023年7月7日 Fri No.960

「人権としての社会保障制度」 の運動推進を！

〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-5-13
宮城県社会保障推進協議会

Tel 022-223-0566 / Fax 022-223-0977

e-mail miyagisyahokyo@bz04.plala.or.jp

私たちのことは、私たち抜きに決めないで！

～みやぎ4病院再編統合・移転～「緊急討論会」105名が参加！



7/1（土）村井知事が進める4病院再編構想に反対する患者や医師ら105名が集い「緊急討論集会」が宮城野区文化センターで開催されました。

精神医療に関わる2名の医師からは、県が4月に示し医療コンサルタントの報告書を「地域特性を分析していない」と批判し、「富谷市移転で県の財政負担はさらに増す」ことも指摘され、「長年かけて築いてきた地域の包括ケアを自ら捨てていいのか」と県立精神医療センターの富谷市移転に反対の意見を述べました。また、県精神保健福祉審議会の位置づけや議論にも触れた意見も出されています。

（写真左上／事態の深刻さを述べる参加者）

仙台市「子ども医療費助成」対象年齢18歳年度末まで引き上げを！ 子ども医療費ネットワークみやぎが仙台市へ要望書を提出！



6/29（木）子ども医療ネットワークみやぎでは仙台市に対する「子ども医療費助成」対象年齢18歳年度末まで引き上げ等を求める要望書を提出しました。ネットからは6団体8名が参加。仙台市子ども若者局から局長他5名が対応しました。

県内の子ども医療費助成対象年齢が15歳末までは仙台市と白石市の2市のみとなっており、少子化問題が深刻化する中で、県内の格差是正と共に、仙台市としての役割を強調し訴えが参加者続きました

（写真左中／担当局長へ要望書を手渡す岩倉代表（右））

中央社保協2023年度 第1回国保改善運動学習交流集会

2023年7月16日（日）10時30分～16時30分

申し込みQR

日本医療労働会館2階会議室 & オンライン

10:30～12:00「国民健康保険制度をめぐる動向と課題」

神田敏史氏（神奈川自治労連）

13:00～16:30 全国の国保改善運動の経験交流



▶▶▶ スマホでも見やすくなって！毎日更新中！社保協Blog：<https://syahokyo.blog.jp/>

みやぎ社保協 FAXNEWS

2023年6月2日 Fri No.955

「人権としての社会保障制度」 の運動推進を！

〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-5-13
宮城県社会保障推進協議会

Tel 022-223-0566 / Fax 022-223-0977

e-mail miyagisyahokyo@bz04.plala.or.jp

子ども医療ネットワークみやぎ 県政記者クラブレクチャー 子ども医療費助成制度アンケートをスタート！



宮城県の乳幼児医療費助成制度の拡充を求めてきた医師団体・医療団体・市民団体で構成する「乳幼児医療ネットワークみやぎ」から運動を引き継ぎ、2023年に名称を「子ども医療ネットワークみやぎ」に変更。新たにアンケート活動や団体署名、市町村から県への意見書を求める運動をスタートさせています。

6/1（木）県乳幼児医療費助成拡充を求め、取り組みをスタートするなど県政記者クラブで会見開き報道3社が対応しました

（写真／記者レクにはネット代表他5名が参加）

みやぎ高齢者問題を考える会 2023年度総会開催



5/31（水）みやぎ高齢者問題を考える会（高齢者の会）では、2023年度総会と学習会を開き11名が参加しました。

講演では「高齢者の権利とゆたかな暮らし-住み慣れた街で暮らし続けるために」と題した講演が行われ、地域包括支援センターの現状やコロナ禍での自粛生活を余儀なくされた高齢者実態など報告があり、参加者からも身近な問題として活発な意見交換が行われました。

（写真／総会会場市民活動サポートセンター）

地域医療を考える会（白石市） 白石市立公立刈田総合病院 “小児科の継続を求める”署名活動スタート

地域医療を考える会（白石）では、2023年4月から公設民営の新しい病院になった刈田病院で、今年6月末には小児科医師退職に伴う小児科の存続が危ぶまれている現状に市長及び市議会議長宛の要望書を提出してきました。今回例会で市長宛「小児科の継続と医師確保を求める要望署名」をさせることが決まり取り組みをスタートさせています。

今回（5/26）地域医療を考える会例会では、公設民営化後初めてのボーナス時期を迎えますが、事業継承した医療法人側から夏期ボーナスはないことが明らかになり、継続雇用の職員には過酷な現状も報告されました。

みやぎ社保協 FAXNEWS

2023年5月26日 Fri No.954

「人権としての社会保障制度」 の運動推進を！

〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-5-13
宮城県社会保障推進協議会

Tel 022-223-0566 / Fax 022-223-0977

e-mail miyagisyahokyo@bz04.plala.or.jp

みんなで考えよう介護保険！みやぎ県民フォーラム実行委員会
宮城県議会超党派との意見交換

“介護保険制度の抜本的改善を共に”



5/19（金）宮城県議会議員とみやぎ県民フォーラム実行委員会との意見交換会が開かれ、県議会議員12名、県民フォーラム実委8名が参加しました。

実委からは2024年度法改正に向けた現場の困難な実態改善に向けた介護事業所への影響調査、担い手不足等の問題を指摘しながら、これまでの実委の取り組みなどを紹介・報告が行われました。意見交流でも活発な意見が出され、制度改善に向けた請願等取り組みについても共有しながら懇談会の継続も確認しました。

＜環境福祉常任委員会＞ 5/12 精神医療ユーザー・村井知事面談に触れて “知事が移転ありきの話をしたのか？”



5/19(金)宮城県議会環境福祉常任委員会が開かれ、県立精神医療センター移転問題に触れた質疑がありました。

12日にあった当事者との知事懇談で、協議が不調に終わったことの報道に触れ「知事が移転ありきの話をしたのか？」の問いに、保健福祉部長からは「知事は移転の必要性などを丁寧に自分の言葉で説明し、今後その方向で進めたいという意思表示をした」(河北新報より)と述べました。

翌日の報道に対し、知事懇談に臨んだ当事者は「県知事からのたつての要望で急速懇

談に臨んだが、知事は富谷移転ありきの前提で我々当事者に話の場を設けるよう依頼してきた。移転に反対する我々の要望を無視した姿勢では協議にならないのでお断りした。」と述べました。

第28回 宮城県社会保障推進協議会総会

2023年6月23日（金）18:00-20:00（会場 & ZOOM）

宮城県保険医協会研修室

（仙台市青葉区本町2-1-29 仙台北町ホンマビル4階）

▶▶▶ スマホでも見やすくなって！毎日更新中！社保協Blog：<https://syahokyo.blog.jp/>